

科目番号	44	科目名	生命科学概論(M)		
英 文 科 目 名	Introduction to Life Sciences (M)				
大学・短期大学名	立命館			大学	
連 絡 先	〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1				
	TEL :	077-561-4972	FAX :	077-561-3935	
担 当 教 員	石水 毅 ほか6名 ( 生命科 学部 教授 )				
実 施 方 法	対面授業 遠隔授業 対面・遠隔併用				
教 室 名	コラーニングハウスI C101	会場	立命館大学BKC(びわこ・くさつ)キャンパス		
授業期間	2025 年 4 月 7 日 ( 月 ) ~ 2025 年 7 月 14 日 ( 月 ) <毎週 月曜日> 5 時限・講時 16 : 40 ~ 18 : 15				
超過時の選考方法	出願票に記載の志望理由による選考				
成績評価方法	定 期 試 験 ( 筆 記 )				%
	レポ ー ト 試 験 ( 期 末 )				%
	平 常 点 ( 出 席 ・ 授 業 態 度 )	100			%
	そ の 他 ( )				%
別 途 負 担 費 用	( なし ) あり ( ) 円				
その他特記事項					
<b>&lt;講義概要・到達目標&gt;</b>					
【授業の概要と方法】 21世紀は『生命科学』の世紀といわれる。これは、20世紀に急速に蓄積した“生物に対する知識”を基盤にして、21世紀には人類の健康と福祉に役立つ技術が開発され、実用化されるであろうことへの期待の表われである。この分野は人間を含む生物(生命体)を研究・実験の対象にするものであり、研究者ならびに技術者には高い倫理観が求められる。本講義は、生命科学部での導入科目として位置づけ、生命科学部の各学科における学問の形態や技術動向等について概観するとともに、研究者・技術者の役割と責任についても講義する。なお、幅広い話題を提供するために、オムニバス形式の講義とする。					
【到達目標】 生命科学研究の現場にいる人たちの研究動機およびに社会から求められる規範に触れることにより、どのように問題を理解し対処すべきか、判断するための基盤を獲得する。					
【成績評価方法】 ・科目全体としての検証テストは行わない ・レポート課題を適宜提示する ・小テストを適宜実施する ・質疑応答等、講義への積極的な参加を評価に加味する					
【授業外学習の指示】 予習: 事前に指示された参考書を読んでおくこと 復習: 講義時間中に指示された参考書を読むこと 30分を目安としてこれら予習復習を行うこと					
【受講および研究に関するアドバイス】 色々なことに興味を持つこと					

<b>&lt;授業スケジュール&gt;</b>		
回	月日	テーマ・キーワード
1	4月7日	石水毅:「授業の概要と導入」
2	4月14日	稲田康宏:「応用化学関連テーマ」1
3	4月21日	稲田康宏:「応用化学関連テーマ」2
4	4月28日	笠原賢洋:「生物工学関連テーマ」1
5	5月12日	笠原賢洋:「生物工学関連テーマ」2
6	5月19日	高橋卓也:「生命情報学関連テーマ」1
7	5月26日	高橋卓也:「生命情報学関連テーマ」2
8	6月2日	森脇健介:「生命医科学関連テーマ」1
9	6月9日	森脇健介:「生命医科学関連テーマ」2
10	6月16日	森脇健介:「生命科学と社会」1
11	6月23日	森脇健介:「生命科学と社会」2
12	6月30日	山末英嗣:「工学倫理および産業エコロジー」
13	7月7日	宮崎栄二:「特許」
14	7月14日	石水毅:「授業の統括」
15	月 日	
<b>&lt;教科書・参考書&gt;</b>		
【教科書】 特に定めない。		
【参考書】		
<1回目講義用>		
『大学でなにを学ぶか』加藤諦三 著 (ベストセラーズ 978-4584122303)		
『現代語訳 学問のすすめ』福澤諭吉 著 (筑摩書房 978-4480064707)		
<14回目講義用>		
『植物バイオテクノロジーでめざすSDGs変わる私たちの食と薬』小泉望・加藤晃 著 (化学同人 978-4759820867)		
『植物はなぜ薬を作るのか』齊藤和季 著 (文書新書 978-4166611195)		
【参考になるwwwページ】 適宜、紹介する。		